

プレスリリース

2025年2月21日
国境なき医師団 (MSF)

コンゴ民主共和国：国境なき医師団の施設が銃撃を受けスタッフが重傷 ——紛争下での人道援助の保護を

コンゴ民主共和国（以下、コンゴ）北キブ州マシシにある国境なき医師団（MSF）の施設が2月20日朝に銃撃を受け、MSFのスタッフ1人が重傷を負った。この施設に家族と避難していた子ども1人も銃撃を受け負傷した。

援助スタッフや人道援助施設の保護は、紛争時に守られるべき原則として国際人道法で定められており、今回の銃撃はこの原則に明らかに反するものとMSFは強く非難する。

民間人が避難する施設で銃撃が

「銃弾を受け重傷を負ったスタッフの容態は危険な状況です。この数週間、マシシにあるMSFの施設の敷地では何度も銃弾を受けてきました」と、北キブにおける活動責任者のステファン・ゲートゲブアは話す。

「銃撃の最中、その施設に避難していた子どもも銃弾を受けて軽傷を負いました。銃弾から守られるべき人道援助施設に対するこの暴力行為を、私たちは強く非難します」

1月上旬以来、マシシの町とその周辺では、コンゴ国軍と同盟を組む「VDP／ワザレンド」の戦闘員と「3月23日運動（M23）／コンゴ川同盟（AFC）」の戦闘員がほぼ連日続いている。この衝突により、MSFが支援するマシシ総合病院に大勢の負傷者が運ばれた。そのほとんどは民間人だった。この病院の施設や敷地内には、数千人の民衆が避難している。

国際人道法の順守を

マシシ病院とMSFの施設やその周辺でも、数多くの深刻な事件が起きている。

1月16日には、マシシ病院の前で2人の市民が銃撃され、1人が死亡した。1月19日には、病院とMSFの施設が銃撃を受け、病院の隣にあるMSFの車庫にロケット弾が当たり、MSFのスタッフ2人が負傷した。1月28日には、MSFの施設とその近くのMSF事務所の間で起きた銃撃で、女性が死亡した。2月16日には、病院に入った流れ弾により、保健省の職員が負傷した。

「このような暴力的な事件が繰り返されることは容認できません」とゲートゲブアは訴える。



MEDECINS SANS FRONTIERES
国境なき医師団

「人道・医療施設を守るよう、私たちは紛争当事者に繰り返し訴えてきましたが、患者や医療者、援助スタッフの安全は明らかに無視されています。国際人道法が守られない状況を止めなければなりません」

MSFは2007年からマシシ病院を支援しており、同病院にはこの数日間で数十人の負傷者が運ばれた。

マシシの医療・人道ニーズは非常に高いが、相次ぐ暴力行為の影響がMSFの活動に及んでいるため、MSFは今後どのように活動を進めていくか検討している。

以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平、高橋哲子

携帯：080-2344-0684

E-mail: press@tokyo.msf.org <https://www.msf.or.jp>

メディア向け X (旧ツイッター) アカウント：@MSFJ_Press